

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解した上で、入居者がその人らしく生活できるように全職員が協議し、独自の理念をつくっている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。理念をホーム内、事務所に掲示し、毎日の朝礼時に出席者全員で唱和している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の方が来所されたときに分かるよう、目につきやすい場所に理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方や入居者の隣人の方の訪問があり、立ち寄り時には、お茶菓子等を用意して気軽に会話の時間が持てるようにしている。店先で会った時利用者への声かけがよくみられている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、地元の人々との交流に努めている。地域のイベント等に参加できる機会には、なるべく出向くようにしている。行事を知らせてもらうように働きかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域と支え、支えられている関係を大切にして地域の高齢者の生活に役立つことはないか、地域ボランティアの方と話し合い、協力できることに取り組んでいきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、外部評価を実施する意義を理解するように努めて、入居者の生活の質の向上につながるように話し合っている。利用者本位の介護サービスの改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議で出された提言を職員に周知し、話し合いや意見交換の場を持ちサービスの向上に活かしている。家族からいただいた意見は真摯に受け止めて周知している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターの方や市担当者とも(会議以外に)行き来する機会をつくり、サービスの質の向上につなげていけるように取り組んでいきたい。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば、勉強していきたい。現入居者については、必要な人が出ていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会をもち、「虐待は許されないこと」の認識の徹底を図っている。言葉の虐待にも注意を払い、防止に努めている。入浴時などに身体チェックを行ない、理由のはっきりしない怪我などはないか様子観察に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書を基に、不安がないように誠実に説明を行い、理解や納得を得てご利用いただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、入居者の思いに心を配り、本人の意見や不満、要望などを表わしやすく働きかけ、入居者の意見、苦情を書きとめ職員間で話し合い、誠実に対応している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来所時に日々の生活状況等を伝えている。又、金銭管理帳に定期的に目を通してもらい㊦をいただいている。ありのまま報告し、理解していただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や不満、苦情は気軽に職員に伝えてくれるように働きかけている。玄関には意見箱を設置している。入居時の説明の折に苦情窓口と連絡先をきちんと伝えている。	○	人目を気にせず、意見や苦情できるように意見箱の設置場所を考慮したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は積極的に聞くようにし、相談の上、運営に反映させている。意見交換は定期的に行ない、相談しやすい環境をつくっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	みんなで話し合い、入居者が安心して生活できるように職員の配置、調整に努めている。職員同志が助け合い、外出時やイベントには手厚い配置を心掛けている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム内での異動はほとんどなく、入居者のなじみの職員が関わるようにしている。寿退社や育児休業はあるものの離職はほとんどない。補充はすぐ対応できている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の機会には進んで参加してもらっている。ホーム内の勉強会も定期的に行うようにしている。また、向学心のある職員には積極的サポートをしている。学校に通っている職員がいる。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の介護施設との交流を図っている。グループホーム同業者との意見交換があり、他ホームの取り組みを参考にサービスの質の向上に反映させている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>いつでも職員が管理者に相談できる雰囲気づくりや場面づくりを心がけており、運営者に伝えて、ストレス軽減のための工夫(業務改善など)を行なっている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>一人ひとりの職員の努力や実績、勤務状況の把握に努め、向上心を持って働けるように、職員に応じた研修の機会には積極的に参加してもらおうようにしている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時に本人や家族と十分に話し合い、戸惑うことなくホームの生活が送れるように適切に対応し、反復して傾聴し受け止め、信頼関係が築けることを心がけている。寄り添い、話がしやすいように対応している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームの生活に馴染めるか不安に思っている想いを受け止め、安心していただけるように、何事も隠さず相談しながら対応することで信頼関係を築いている。常に話しやすい雰囲気心を掛けている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、まず必要としている支援を理解し、戸惑うことなく生活が送れるよう、できる限りのサポートに努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	コミュニケーションを大切にしながら、まず職員や他入居者とのなじみの関係を築き、家族などと十分話し合いの上、本人のペースを尊重しながら安心して生活できるように支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人ができることを尊重し、していただいていることで自信と喜びが得られるように支え、年輩者から教えるを請うなどよい関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人に関する情報交換を行い、共有することで本人の気持ちを大切にしたい支援ができる関係づくりを心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の訪問時の時間を大切にさきげなく見守っている。また、生き生きとしたホームの生活の様子を伝え安心していただけるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人の訪問があった場合には暖かく迎え、居室に椅子などを運び入れ、ゆっくり過ごせるように配慮している。お茶菓子なども用意している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士のトラブルの原因を把握し、可能な範囲で取り除けることには対応している。入居者同士の関係を見極め、孤立することなく、関わりあえるように職員が取り持ち、支えあう場面作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、ホームとの関わりを希望される家族などには、安心していただけるように関係を断ち切らない付き合い(お見舞いや電話連絡など)を大切にしている。外で出会った時には近況などをおうかがいしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや暮らし方の希望を本人から聞いたり生活している中でやりたいことできることを把握するように努めている。本人の思いは尊重している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の個人情報、生活歴を家族などからの聞き取りで把握に努め、入居前の生活を活かした支援ができるようにしている。今までの生活ベースを尊重するように心掛けている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活の中で、個々のすごし方や有する能力、心身の状態など、現在の状況を総合的に把握するように努めている。また、個々の生活スタイルの違いを見極め、適切に対応している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個々にあった計画作成に努めている。本人、家族関係者との話し合いの中で意見や交換を行ない、他の人に合ったケアができるように作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回、計画の見直しを行っているが、状態の変化時には現状に即した新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録を充実させ、その内容(情報)を共有することでケアの実践や介護計画の見直し時に活かしている。日々の記録から入居者の状態を十分に理解し、適切なケアに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスが併設されており、その日の利用状況によりホームからも交替でレクリエーションなどに一定時間内参加できている。デイサービス利用者のホームへの訪問やグループ内施設のイベントにも参加し、交流がはかられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアの協力が得られ、より豊かな暮らしが楽しめるように支援している。又、交通安全教室や消防訓練の協力も得られている。地域の文化祭にも参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向に応じて、よりよく暮らしていけるようにケアマネジャーと話し合い必要な情報を得たり、アドバイスをいただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2か月に一度、地域運営推進会議においてセンター職員との交流があり、その都度有意義な意見や提言をいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが納得している医療機関での受診や往診が適切になされている。受診サポートについて説明し、受診時の送迎を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症について、診断や治療を含めて相談できる医師を確保しており、受診に際しては看護師も付き添い、サポートしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置し、日常的に健康管理に努め、支援医療機関と連携し医療活用の支援をしている。訴えを聞き入れ話し合い、納得がいくように支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に際しては情報提供書等を添付し安心して療養にあたるように配慮している。医療機関と施設責任者が情報交換や相談にあたり、希望にそえるように連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について支援医療機関や施設責任者、家族などを交えて話し合いの機会を設け、希望に沿えるように体制を整えており、全員で方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取り介護の契約書を準備しており、介護計画書を作成できるように、変化に適切に対応している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホーム内での住み替えは極力さけている。心身の著しい変化が起きた場合で居室の空室が出た時は、関係者で十分に話し合い情報交換を行い、家族の理解が得られたときのみ住み替えることがある。(よりよいケアにつながる時のみを基本としている)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーや個人の尊厳に配慮し、言葉かけや適切な対応を心がけている。カルテなど、個人情報の取り扱いに十分注意している。(鍵のかかる場所に保管)</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>本人の思いや希望が表せられるような場面づくりを心がけ自己決定の上、本人の思う生活ができるように支援している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの生活ペースやスタイルを尊重して、その人らしく過ごせるように支援している。読書、書道など一人で過ごしている時間をさりげなく見守り、共有時間に巻き込まないようにしている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように家族の協力をお願いしたり、ホームからプレゼントを用意することもある。外出時には、お化粧品をすることもある。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの入居者の嗜好の把握に努め適切に対応している。日により別メニューを用意することもある。又、同じ食材でも調理方法を変更する事もある。協力して食事の準備や片付けを行っている。外食やお弁当を楽しむこともある。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>たばこが欠かせない人には場所を用意している。コーヒー、お茶、おやつなど日常的に楽しめるように支援している。手作りおやつを入居者に手伝ってもらったりして、目の前で用意することがある(五感の楽しみ)。</p>	<p>○ 月に1～2回はホーム内喫茶店を開き、好みの飲み物やおやつが違った雰囲気の中で楽しめるようにしたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりのパターン(排泄チェック表から読み取り)に合わせて対応している。本人の挙動から察知してさりげない支援を心がけている。(本人の意思を尊重しつつタイミングをみて誘導することを心掛けている)		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望する時間(毎日の入浴も可)に入浴できるようにしている。急に「入りたい・・・」と言っても随時対応できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別対応を心がけている。安心して気持ちよく休息したり眠れるように日中メリハリのある生活が送れるように支援している。日中は畳の部屋やソファで横になっている方もおられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活に楽しみや張り合いが得られるように潜在している、能力や記憶を活かして自分らしく暮らせるように役割参加や趣味が楽しめるように支援している。(絵を描いたり、手芸をするなど・・・)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じた金銭管理の援助を行っている。預かり金規程をつくっており、定期的に出納帳に目を通してもらっている。自分の財布から買い物や通院時の支払いができるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じながらの散歩や買い物、外食、喫茶などへの外出支援を行っている。車椅子の方もできるだけ外に出られるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個性の高い特別な外出は家族等の方をお願いしているが、その時の注意点を伝え、外出先で困りごとがないように衛生用品等を施設で準備して安心して出かけられるように支援している。花見や遠足等、家族と共に参加できる行事を取り入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人への電話や郵便は直接取り次ぎ、やり取りができるように関わっている。外からの電話には、後日家族に電話があったことを伝えている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつの時間帯でも訪問が可能なことを入居者に伝えている。本人の馴染みの人たちが訪ねてこられた時には暖かく迎え入れ、居心地よく過ごせるように茶菓子などを居室に運んでいる。訪問が頻回な入居者の居室にはくつろげるように椅子や机を用意してある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておらず、全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識している。必要な場面が想定されても別の対応で工夫を凝らすように心掛けている。特に言葉の拘束について周知を徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自由に入出りできるような環境を整えている。入居者には外出する機会を増やし気分転換が図れるように取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々のプライバシーに配慮しながら、挙動でサインを察知し、さりげなく常に見回りを怠らないように注意している。本人の発する言葉からも次に予想される行動を理解し安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理できる人にはしてもらい、その他の人については必要であればすぐに取り出せる場所に保管し貸出したりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒などについて、それぞれに対応マニュアルを作成し、職員に周知徹底を図っている。一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険を検討し、事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護職員が常駐しており適切に対応している。全ての職員が連携して対応に当たれるよう、必要な知識を身につけられるように学びの機会を持っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の訓練は年2回行っている。訓練には地域の人々や他の事業所の協力が得られている。避難訓練を定期的に行い、落ち着いて行動できる心構えを身につけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の入居者に起こりうるリスクについて、家族や職員で共通認識をもち安全に配慮しながらも、抑圧感のない暮らしを大切にいくために理解が得られるように丁寧に説明している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は個々の体調の変化や異変に早期に気づき、見落としがないように努め情報を共有して適切に対応している。医療機関とも連携を密に取っており、指示のもと、早めの対応を心掛けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の服薬の目的を理解して飲み忘れや誤薬を防ぐための取り組みをしている(朝、昼、夕、寝る前と個別に1回分毎、分包し、名前とともに記入している)。一人ひとり服用している薬のファイルを作りすぐに分かる体制をとっている。職員が確認し確実に服用できている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘を訴えがちな入居者に対しては個別に飲食物に工夫をこらしたり、腹部マッサージを施したり、運動の励行を働きかけている。散歩や体操、飲み物など良いと思われるものは実践している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行っている。入居者の能力に応じた援助を行っている(声かけのみ、一部介助、全介助)。一日3回、食後の歯磨き、週2回の義歯洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの過不足や栄養の偏りがないように栄養士が基本的に献立を立てている。個々の入居者の食事摂取量を毎食チェックしている。必要な水分量が確保できるよう、1日に5～6回に分けて飲む機会をつくっている。チェック表を作成し個々にどれだけ摂取したかを記入している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応にマニュアルがあり、職員に周知し徹底を図っている。手洗い、アルコール消毒、うがいなどはこまめに行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	発生しやすい時期だけでなく食中毒の予防のため、調理者使用器具の消毒には常に十分気をつけている。台所の衛生管理の徹底を図っている。新鮮で安全な食材を毎日信頼できる業者から調達している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節毎に花の植え替えを行い、家庭的な雰囲気をかもし出している。玄関近くには近隣の方が休憩できるようにベンチを備えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光りが不安をあおらないように配慮している。生活感や季節感が得られるように飾り付けに工夫をこらしたり、季節の花を絶やさないようにしている。季節に応じ工作し、作品を展示できるスペースもある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が顔を合わせて語りあったり、ほっとできるスペースが確保されている。サンデッキや通路にも椅子を置き、いろいろな場所で安らげるように工夫している。大きな食卓では、縫い物や趣味が楽しめるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にグループホームの趣旨を説明し、本人が落ち着いた生活が送れるように馴染みの家具などの持込を働きかけている。馴染みのある家具や大切な人の写真など、その人に見合ったお部屋づくりができています(人形や本、ラジオなど)もおられる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気との大きな差が出ないように温度調節はこまめに行っている。高性能の空調設備を設置している。気になる匂いや空気のとよみがないように日中は空気の入替えを行ない常に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能のレベルによっても安全に移動できるように、リビング、廊下、トイレ、浴室などに手すりを設置しており、自立した生活が送れるようにしている。一部、個々に合わせた椅子を提供している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の理解力を把握し、混乱や失敗をさりげなく受け流し、再び混乱や失敗を招かなくてすむように環境設備や物品の検討を行い、自立支援を目指している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りやベランダには植木鉢をつるしたり、置いたりして個々が花を植え、水やりを日課として、成長を楽しんでいる。庭造り、家庭菜園、テラスでの日向ぼっこができるなど、ゆとりとした空間がある。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

隣近所の方がボランティア組織をつくり、日替わりで毎日のように顔をみせてくれ、交流が図れています。また、ボランティアの方がつくってくれた手芸品で居室入り口が飾られています。食事内容の充実にも力を入れており、栄養士や調理師の有資格者の指導のもと、おいしくいただける工夫と、ほぼすべて手作りで心のこもった食事を提供しており、これらを入居者とともに食事作りに励んでいます。食材には一切冷凍食品は使わず、国産のみにこだわっており、安心・安全の提供を心がけています。地域住民やボランティアの協力のもと、家庭菜園に取り組んでいる「ひまわり農園」で、収穫された季節の新鮮な野菜が食卓をにぎわしてくれています。今年は入居者共に収穫したさつま芋が毎日工夫を凝らした日々のおやつ作りに大いに役立っています。